

電 気， ガ ス， 水 道

水道の水で調理し，ガス燃料で煮炊きした夕食を，明るい電灯の下に家族揃って楽しく食事する便利さを知る人は，これら公共事業の持つ重要さを，充分承知しているわけであるが，一方では，未だ天然の雨水に喉を潤し，落葉枯枝の煙にくすぶりながら，暗いランプの灯りを受けてラヂオもなく，読書にも事欠く生活を営む人々が，本県にもある。

さて，本県の電力事情をみると，供給面では本県が地形的に河川の水量に乏しく，落差もないため水力発電に適さず，発電所と称し得るものがなく，僅かに稼動する小規模発電所3ヶ所を合せても，その出力は300KWの応急或いは電圧調整用電源に過ぎず，県内消費電力は遠く猪苗代湖発電所からの送電によるものである。しかし，今般千葉市東方埋立地に，東京電力千葉火力発電所が400億円の巨費を投じて建設され，完成の時には62万5千KWの出力を有する，東洋一の火力発電所として活動することとなつたため，本県も，漸く有力な電力供給源を持つことになる。

電力需要面では年々消費量が増大し，特に電力用消費は，昭和28年に比して昭和30年は17%増加し，電灯用消費量の6%増加をしのいでいる。また，全消費量の64%は電力用である

ガスについては需要者が都市にある性質上，県内の一部地域しか恩恵を受け得ない状況で，県下全戸数の約3%が利用しているに過ぎないが，消費量の65%は一般家庭のものである。

本県の上水道事業の歴史は比較的新しく，昭和11年，千葉市に初めて県営水道を布設し，以後引続いて拡張，新設が行われたため，私設水道と共に，現在の状況に至っている。いう迄もなく，上水道は飲料水として衛生上，或いは防火用水として保安上にも欠くことは出来ず，工業の発展にも重い役割を持つものであるが，本県の給水人口は，全人口の16%となつている。